

奈弓連だより

通巻 277号

令和7年3月号

発行 奈良県弓道連盟

会長 阪中計夫

編集担当 松澤和実 中西省五

連絡先: henshu@narakyudo.jp

称号者研修会

称号者として必要なことは

標記講習会が橿原公苑弓道場にて、主任講師に須田三郎先生、講師に西浦範光先生をお迎えし、2日間にわたり開催されました。各日ともに、多くの学びと気づきを得る充実した研修会となりました。

●錬士六段、教士の部 (2月15日) 受講生: 17名

◆開会式

須田先生より「本日は審査前講習会ではなく称号者研修会であり、称号者としての心構え、後進の育成、支部での役割について改めて考える機会にしてほしい」とのご挨拶がありました。「皆さんは既に技術・知識の習得を重ねてきた方々。今回は、称号者としての品位や責任、指導者としての視点をさらに磨くことが目的です」とのお話で、受講生一同、気を引き締めて研修に臨みました。

◆一手行射後講評

西浦先生からは「教士は常に見られている存在。射技・体配においても、細部に気を配り、堂々とした立ち居振る舞いが求められる。教士としての自覚を持ち、日頃から意識して稽古することが必要」とのご指導がありました。詳細な注意点として、弓倒しのとき、拳が前に出る人が多い。足を閉じるときに左ひざを曲げない。会が短い、もっと会で葛藤し弓と闘う、等を御指摘いただきました。

須田先生からは「基本に立ち返り、学びを継続する姿勢が大切。今回の研修を通して、具体的な目標設定と実践を積み重ね、支部に戻ってからもその姿勢を広めてほしい」との助言がありました。詳細な注意点として、弓矢の扱い方ももっと真剣に工夫し、ぞんざいに扱わない。目づかいをしっかりと。物見で顎が浮いている、耳タブが肩に落ちるように項を伸ばす。大三では矢を水平に美しく、等の御指摘いただきました。

◆一つの射礼講評

射礼後には受講生からの発言の機会も設け「呼吸を合わせることの重要性を再認識した」「自分に無駄な動きが多いことに気づけた」といった率直な感想が寄せ

昇段おめでとうございます

2月名古屋定期中央審査会において次の方が昇段されました。

(2月23日開催)

日本ガイスポーツプラザ弓道場)

六段 藤本 聡郎さん (橿原支部)

おめでとうございます (事務局)

られました。西浦先生からは「射礼は呼吸を合わせ、全員が調和することが大切」とのお話、須田先生からは「所作の一つ一つに意味を持たせること」との具体的な指導がありました。



仕上げ行射

◆閉会式

西浦先生は「弓手が残るだけで射の印象が大きく変わる。この感覚を大切に持ち帰ってほしい」と話されました。須田先生は「的中に対する迷いなくなるまで稽古を重ね、無心で的に向かう心構えを持ってほしい」と締めくくられました。

●錬士五段の部 (2月16日) 受講生: 13名

◆開会式

会長より「称号者研修会は、称号者としての自覚と、さらに上を目指すための重要な場。質の高い稽古と意識改革の機会として活用してほしい」とのお話がありました。須田先生からは「称号者は単に昇格・昇段を目指すだけでなく、支部や県連、後輩の指導にどう貢献できるかを考え、知識を支部に還元できるよう努め

てほしい」との御言葉がありました。

◆一手行射後講評

西浦先生より「称号者としての自覚を深め、教士の先生方の射を見て学ぶ『見取り稽古』を意識すること。無駄な動きを省き、自然体を目指し、隙のない射をつくる意識が大切」とのご指導をいただきました。須田先生から「弓の扱いが雑になっている。心を込めた丁寧な所作を行うこと、呼吸で合わせ八節を途切れさせないこと。特に十文字の縦線が不十分。日頃の稽古から真剣に取り組むこと」とのご助言をいただきました。



細やかで厳しい視点からの講評

◆持的射礼での指摘事項

錬士五段の部では、持的射礼を立ち位置を入れ替え 3 回行いました。

- ・目づかいと呼吸の一体感を意識すること
- ・矢番え動作を丁寧に行う
- ・弓倒しの際に肘をきちんと残す
- ・執弓の姿勢では両拳の位置をしっかり合わせる
- ・退場時は 1.8 メートルの間合いを意識して動く



気合の入った一手行射

◆閉会式

須田先生より「最後の仕上げ行射では、午前中よりも明らかに集中力が増していた。普段の練習で、基本を理解している人は、指導の意図を理解し吸収しやすい。今日学んだことを一つでも持ち帰り、今後の審査や支部活動に活かしてほしい」とのお言葉をいただきました。

西浦先生からも「本日の意識の高い射を今後も忘れず

に、称号者としての自覚を持って稽古を継続してほしい」との講評をいただき、2 日間の研修は締めくくられました。

長時間にわたりご指導いただきました講師の先生方に心より感謝申し上げます。

以上の報告を記録係の揚田受講生・原田受講生（錬士六段・教士の部）、藤本受講生、高岡受講生（錬士五段の部）から受け、指導部で編集して記載させていただきました。ありがとうございました。

（指導部 吉本 清巳）

地連審査講習会

射技・体配ともに熱い心で取り組む

2 月 24 日（月・祝）、榎原公苑弓道場において、地連審査講習会（三段以下）が行われました。講師に阪中会長と藤岡理事長をお迎えし、審査部から松村先生と西田先生、指導部から東中先生と太田の 6 名で指導を行いました。応募人数が多かったことから、支部や学校ごとに午前と午後の部に分かれての実施となりましたが、県内では冬型の気圧配置が強まった影響で、23 日の夜から雪となり、一部の交通機関にも影響が出るなど、降雪での欠席が散見されました。参加者は午前 27 名、午後 30 名でした。



雪景色の中で

午前・午後ともに開会式では、地連審査講習会の意義についてのお話があり、その後、四段受審者の一手行射が行われ、他の受審者は、師範席で見取り稽古を行いました。その際、行射に合わせて動作の説明や注意する点などの解説がありました。一手行射の後の講評では、「午前と午後を通じて 4 組を見てきたが本座まで綺麗にそろった組が無かった・・・合格の当落線上にある場合、入退場を含めた体配が良くできていれば、それが決め手で合格になることもあります」などのお話があり、全員が体配の重要性について再認識を

されたようでした。この後に実施された、射技と入退場や矢の処理の講習では、先生方の指導を真剣に聞き、指摘された動作などを繰り返し練習する方や疑問点を積極的に質問するなど、熱心に取組まれる様子が確認できました。

講習中にも雪が降るなど、とても寒い一日となりましたが、盛りだくさんのプログラムを終始熱心に取り組まれた講習会でした。射技とともに体調もしっかりと修練をして、審査に挑んでいただければと思います。

(指導部 太田 和宏)

第一回榎原神宮奉納全国弓道大会 総勢 405 名が熱戦を繰り広げる

3月9日(日)、一昨年の年末から検討を開始し、長きにわたり準備を重ねてきた「第一回榎原神宮奉納全国弓道大会」を晴天のもと執り行いました。まだ少し肌寒い朝の8時前、正式参拝のために榎原神宮境内の神宮会館前に参集した400名近い一行は、墓目の射手を務めていただく新司正人先生を先頭に、榎原神宮内拝殿へと向かいました。



朝の引き締まった空気の中 正式参拝へ

お祓いを受けた後、新司正人先生、全日本弓道連盟元会長の中野秀也先生、榎原市弓道協会の阪中計夫会長による玉串奉納が行われ、その後、榎原神宮史上初めてとなる、内拝殿前庭での墓目の儀が行われました。畝傍山を背に、大勢の参加者が見守る中、内拝殿前庭に魔を祓う墓目矢の音が響きわたりました。

その後、今回の射場となる斎館前に場所を移し、開会式が始まりました。阪中会長、榎原神宮の久保田宮司、榎原市の亀田市長のご挨拶の中では、それぞれに榎原神宮で弓道大会を行うことの意義についてお話いただきました。続いて、阪中会長による矢渡し、中野



巖かに

先生・西中先生による一つの立射礼の特別奉射が行われ、いよいよ総勢405名による奉射(予選)がスタート。特設弓道場が狭く、入場に手間取ったり、打起しの弓がテントに当たったりと苦勞しながらも熱戦が繰り広げられ、有段者(女子10名、男子13名)、称号者(女子6名、男子4名)の皆中者が決勝に進みました。日影が増えて少し寒くなり始めた午後3時過ぎに始まった、八寸的での射詰め競射、尺二的での遠近競射を経てそれぞれの部門で入賞者が決まったのは、競技開始から6時間以上が経過した、午後4時を過ぎた頃でした。表彰式では、大会表彰、榎原神宮表彰、榎原市表彰と表彰が行われ、午後5時前に無事本大会を終了することができました。奈良県からは乾光孝選手(布目)が3位に入賞されました。



特設の会場で

思えば数年前、「明治時宮や伊勢神宮で天皇杯があるなら、榎原神宮では神武天皇杯がやりたい」という私の妄想から、阪中会長の人脈で大勢の方々を巻き込み、衛藤副会長を先頭に様々な準備を経て実現することが出来た大会でした。榎原神宮、榎原市をはじめ、市協会員の他、早朝からご参加いただいた県連の先生方、近畿の先生方、快く協賛に応じていただいた市内各企業の皆様、そのほか大勢の方々ご協力、ご支援を受け、天候にも恵まれた大会となりました。ありがとうございました。(榎原市弓道協会 角田 圭一郎)

令和6年度奈良県武道祭

第2回奈良県合同武道演武大会

3月15日(土) 橿原市中央体育館において、標題の大会が行われました。奈良県武道協議会が再発足した昨年度に続いての開催となりました。

福谷健夫副知事をはじめ多数の来賓のご臨席をいただき、加盟する10の武道団体が演武を披露しました。開会式のあと、新司正人県武道協議会理事長による慕目の儀で場を清め、大会が幕を開けました。その後、奈良県弓道連盟として西中正名誉会長・阪中計夫会長・藤岡順理事長が立射礼を行いました。



立射礼

続いて、錬弓会支部 鷺尾佐和子・橿原支部 長濱有美・生駒支部 山口亮二により四つ矢坐射を行い、高的中に会場が盛り上がりました。



四つ矢坐射

普段あまり目にする機会の少ない弓道以外の様々な武道の演武を見ることができる貴重な時間を過ごすことができました。

(事務局 綿松 昭寛)

審査練習会(高校生)

基本動作、坐射体配などについて、熱心に学ぶ

3月8日(土)・9日(日)、橿原公苑弓道場および第2体育館において、3月に初めて審査を受審する高校生を主な対象として、審査練習会が行われました。

昨年度は1日開催で、弓道場と第1体育館に2か所の計3か所の練習場を設け、60分交代で回るようにしていました。生徒の移動に時間がかかり慌ただしくなっていました。今年は2日間の開催日を取り、第2体育館と弓道場の2か所で各90分ずつ時間を取り、余裕のある練習を行うことができました。



矢の処理を学ぶ

本年度も弓道場での指導には、奈良県弓道連盟の指導部や審査部の先生方にお越しいただき、審査当日を想定しての行射と、入退場、矢の処理等丁寧なご指導をいただきました。第2体育館では高体連の担当が模擬射場で指導を行いました。



第2体育館での練習

地連審査や公式戦、また今後の後輩の指導に向けて、正しい体配・作法について改めて一から学び、その理解をより一層深めることができました。

(高体連 藤井 真生)

奈良県中学校弓道選手権大会

男子優勝は中島選手(橿原中)

女子優勝は高橋選手(香芝中)

学校対抗戦は橿原中学校が優勝

3月15日(土)、標題の大会が橿原公苑弓道場において開催されました。近的個人戦(男女別)及び学校対抗戦(男女混成可)で各人4射とし、2中以上の者が予選通過。予選通過者は再度4射し、計8射の的中数で順位を決定。参加人数は男子57名、女子80名でした。

結果は以下の通りです。

<個人戦>

男子	女子
優勝 中島 啓秀 (檀原)	優勝 高橋 絆音 (香芝)
2位 杉本 康徳 (香芝)	2位 逸崎 理子 (白檀)
3位 坂本 郁人 (大成)	3位 山田 結菜 (檀原)



個人戦入賞者 左から女子男子の1位～3位

<学校対抗戦>

優勝 檀原中学校	2位 香芝中学校
3位 大成中学校	



学校対抗戦 前列1位、後列左2位、右3位
(中体連 中前 芳一)

大学連合講習会

入場から退場までの流れを意識して

主任講師として、畿央大学から土谷尚敬先生、講師に奈良女子大学 新司正人先生、奈良教育大学 中西省五先生、奈良県立医科大学 阪中計夫先生、帝塚山大学



正しい入場の仕方を学ぶ

藤岡順先生、奈良大学 深田紀美子先生にお越しいただき、3月2日(日)檀原公苑弓道場で第二回大学連講習会が行われました。

今回はより審査を意識し、入場から行射、退場の一連の流れ、呼吸から基本体の形、射法八節のポイントを丁寧に指導していただきました。また、射技指導では、師範の先生方との対一の指導のおかげで、普段の意識とは異なる視点をみつけることができ、とても貴重



審査の一連の流れの中で指導を受ける

な機会となりました。また、各大学間での課題や悩みを話し合う機会もあり、部員の勧誘やSNSの活用方法等も含め幅広い話題で交流することができました。

(畿央大学 寫岡 奈月)

第57回 中日本女子弓道大会

東郷仁美選手(初段～参段の部)が第5位に



3月2日(日)に、日本ガイシスポーツプラザ弓道場(愛知県名古屋市)において標題の大会が開催され、東郷選手が入賞されました。この大会は中日本の各地より

500名を超える女子が集い、大学生の部、初段～参段の部、四～五段の部、称号者の部に分かれて予選を行い、皆中者は決勝へ進み競射を行います。普段なかなかお会いすることのない地域の方と交流したり、大会はじめに各地の先生方が一緒に行う射礼を拝見できることも魅力のひとつです。

(奈良支部 土谷 ひろみ)

編 | 集 | 後 | 記

先日、いつも奈弓連だよりを読んでもくださり、毎月20日を楽しみにしてくれているという、他県の方の話を聞く機会がありました。編集に関わる者として、非常に嬉しく思います。今後もより多くの方々に情報が届くことを願っています。(編集担当 中西 省五)